

第2 実践事例

事例1 見通しや振り返りを充実させ、学びに向かう力、人間性等の育成をねらった事例

- 学年 第6学年
 ○主な領域 造形遊びをする活動
 ○事例のポイント
- ①児童が撮影した校内の写真の上にお絵描きソフトを使ってアイデアをかく「スケッチオンピクチャー」を行い、活動の見通しをもてるようにする。
 - ②「アートプロジェクトボード」というワークシートをデータ化してクラウド上にアップし、グループごとに入力できるようにし、活動の見通しをもったり、振り返ったりするようにする。
 - ③本時の目標を達成する活動を行った時に、「アートストーリー」として、活動の様子を記録し、活動を振り返るようにする。

1 題材名 「スクールアートプロジェクト」

【第6学年】A表現(1)ア、(2)ア、B鑑賞(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ 造形遊びをする活動

2 題材について

- (1) 児童の実態 (略)
- (2) 本題材を指導するに当たって (略)

3 目標及び評価規準 (※〔共通事項〕(1)ア、イはア____、イ_____で示す。)

(1) 題材の目標

- ・自分の感覚や行為を通して、形や色、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどの造形的な特徴を理解する。
- ・活動に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしたり方法などを組み合わせたりするなどして活動を工夫してつくる。
(知識及び技能)
- ・材料や場所、空間などの特徴を基に造形的な活動を思い付くことや、構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するかについて考える。
- ・自分たちの活動の造形的なよさや美しさについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。
- ・形や色、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを基に、自分のイメージをもつ。
(思考力、判断力、表現力等)
- ・主体的にスクールアートをつくる活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

(2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知自分の感覚や行為を通して、<u>形や色、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどの造形的な特徴を理解している。</u></p> <p>技活動に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしたり、方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫してつくっている。</p>	<p>発<u>形や色、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを基に、自分のイメージをもちながら、材料や場所、空間などの特徴を基に造形的な活動を思い付くことや、構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するかについて考えている。</u></p> <p>鑑<u>形や色、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの活動の造形的なよさや美しさについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。</u></p>	<p>態つくりだす喜びを味わい、主体的に<u>校舎内の特徴を生かした造形遊び</u>に取り組もうとしている。</p>

※それぞれの評価規準は「内容のまとめりごとの評価規準(例)」を、そのまま使用したり、具体的な学習活動を踏まえ言葉を省略や変更したりするなどしている。(下線部は変更箇所)

4 指導と評価の計画（全6時間扱い）

○：指導に生かす評価、◎：全員の学習状況を記録に残す評価

時間	学習のねらい・学習活動	評価の観点、評価方法等					備考	
		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
		知	技	発	鑑			態
1	・材料や場所、空間に関わりながら、その特徴を捉え、造形的な特徴を理解するとともに、どのような造形的な活動ができそうか、つくりながら思い付いたり、考えたりする。	○		○			<p style="text-align: center;">▼</p> <p style="text-align: center;">◎ 観察対話表現ワークシート記録</p>	「知識」「思考・判断・表現（発想や構想）」の視点で児童の学習状況を把握し、指導に生かす。
2		◎ 観察対話表現記録		◎ 観察対話表現記録				「知識」「思考・判断・表現（発想や構想）」の視点で児童の学習状況を把握し、記録に残す。
3	・前学年までの材料や用具などについての経験や技能を生かしたり、方法などを組み合わせたりするなどして、つくりながら活動を工夫する。		○					「技能」の視点で児童の学習状況を把握し、指導に生かす。
4			◎ 観察対話表現記録					「技能」の視点で児童の学習状況を把握し、記録に残す。
5	・材料や場所、空間の特徴を生かして、さらに、どのような造形的な活動ができそうか、つくりながら思い付いたり、考えたりし、活動を工夫する。		◎ 観察対話表現記録	◎ 観察対話表現記録				「技能」「思考・判断・表現（発想や構想）」の視点で児童の学習状況を把握し、記録に残す。
6	・活動によって変化した校舎内の様子の造形的なよさや美しさなどについて鑑賞し、自分の見方や感じ方を深める。				◎ 観察対話ワークシート記録			<p>「思考・判断・表現（鑑賞）」の視点で児童の学習状況を把握し、記録に残す。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」の視点で児童の学習状況を把握し、最後に記録に残す。</p>

5 本時の学習（本時3・4／6時）

(1) 目標 ・活動に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしたり、方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫してつくる。
 〈知識及び技能〉

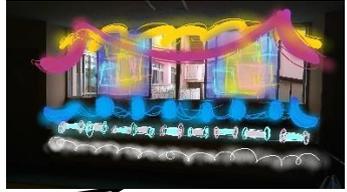
(2) 準備

- 教師：段ボール、ポリプロピレンテープ、角材、不織布、色画用紙、布粘着テープ
 両面テープ、カッターナイフ、カッターマット、セロハンテープ
 はさみ、アクリル絵の具、筆、プリンカップ、新聞紙等

- 児童：身近な材料、ICT端末

(3) 展開

過程時間	学習活動 予想される児童の具体的な姿（「 」）	指導の工夫 （〔共通事項〕に係る内容 ア____、イ_____）	評価と手立て 【観点】：評価規準（評価方法） ◎：十分満足できる状況 ◆：B評価に達しない児童への手立て
導入 8分	<p style="text-align: center;">提案 場所や空間、材料や用具を生かして「スクールアート」を工夫してつくりよう。</p> <p>1 前時までに撮影した自分たちの活動の様子を見ながら、「アートレベル」がいくつなのかを考え、「アートプロジェクトボード」をグループで書き、どのような工夫をするか見通しをもつ。 「私たちは水飲み場の場所や空間の特徴である明るさや水を使うことについては生かして活動しているね。『場所や空間を生かしている』のレベルは高いね。」 「私たちはまだ少ない種類の材料しか使っていないから『材料や用具を活用している』という項目のレベルが一番低いかな。特に今まで使っていない材料や用具を使うことにしようね。」 「今回は、ペットボトルと針金を組み合わせて使うようにして中に色水を入れてみよう。場所や空間を変化させられるかな。」</p>	<p>○本時では、場所や空間を生かしている、材料や用具を活用しているという二つの観点から、工夫のよさについて意識し、本時の目標を学級全体で確認するようにする。</p> <p>○場所や空間を生かしている、材料や用具を活用している、これまでの学びを生かしているという三つの観点で工夫のよさを意識し、自分たちの表現の工夫の達成度を5段階で表した「アートレベル」がいくつなのか、グループ同士で話し合い、本時の見通しをもてるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「アートプロジェクトボード」には「アートレベル」がいくつなのかを考えたことを踏まえ、活動の初めにどのような工夫をしたいか、最後には実際どのような工夫ができたのかについて記述することを確認するようにする。</p> </div>  <p>○安全に活動できるように、危険なことをしない。無理をしない。周りを見る。何かあれば相談する等の「安全ポイント」を確認する。</p>	<p>編 P111 指導計画の作成の留意事項(2)</p> <p>編 P111 指導計画の作成の留意事項(6)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>事例のポイント② グループでの活動を活発化させるために、活動の初めと終わりに、「アートプロジェクトボード」をかくようにし、グループ活動の見通しをもったり、振り返ったりするようにする。</p> </div> <p>編 P111 指導計画の作成の留意事項(8)</p>

<p>展開 72分</p>	<p>2 グループごとに「スクールアート」を工夫してつくる。 「アルミ箔を壁に貼り付けたら光を反射してきれいだな。ペンで色をぬってもきれいだな。窓際の空間が変わってきたよ。」</p>    	<p>「スケッチオンピクチャー」を行い、活動を工夫するきっかけとなるようにする。</p>  <p>事例のポイント① どこにどのように活動するのかのイメージをグループで共有するために、簡単に記録し、活動の見通しをもてるようにする。</p> <p>「アートストーリー」をつくり、活動を工夫したことを意識できるようにする。</p>  <p>事例のポイント③ 自分たちの活動の様子を動画で取りながら、どのようなことに価値を見いだして記録しているのかも音声で記録し、活動を振り返るようにする。</p> <p>○「スクールアート」をつくる活動を通して、造形的な特徴を理解できるようにする。そのために、造形的な特徴に注目できるように声掛けをし、児童同士の対話を促す。</p> <p>○造形的な特徴を基に自分のイメージをもつことができるようにする。そのために、思いや意図を教師が理解しながら、児童のイメージについて質問する。</p>	<p>【知・技】(技) 活動に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしたり、方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫してつくっている。 (行動観察・対話・表現・記録)</p> <p>◎独創的、効果的、連続的、継続的に活動を工夫してつくっている。 ◆活動を工夫していないグループには、材料や場所、空間を基に思い付いている活動について確認し、実際に材料を使いながら、どのように材料の組合せ方をしたらよいかグループの話し合いを促す声掛けを行う。</p>
<p>整理 10分</p>	<p>3 活動を振り返る。 「材料と空間を生かして思い切り活動を工夫してつくりました。次はこれまでの学びを生かして工夫したいです。」</p>	<p>○「アートストーリー」を見て、グループごとに「アートプロジェクトボード」をかき、「アートレベル」がどう変わったのか考えることで、本時の学びを振り返るようにする。</p>	

知=「知識・技能」の知識に関する評価規準、技=「知識・技能」の技能に関する評価規準、発=「思考・判断・表現」の発想や構想に関する評価規準、鑑=「思考・判断・表現」の鑑賞に関する評価規準、態=「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を表す。
※【記録に残す評価】は□、【指導に生かす評価】は○で示している

6 時間目

グループ		自分たちの「スクールアート」を鑑賞し、 自分の見方や感じ方を深める。	
活動前 (before)		活動後 (after)	
名前	自分たちの活動のよさ	名前	他のグループの活動のよさ
自分たちの「スクールアート」を鑑賞し、 自分の見方や感じ方を深めたこと			
名前	自分たちの活動（表現）の価値について		